

人類学における地域概念： local, region, area

国立民族学博物館 竹沢尚一郎

地域概念の複層性

「地域」は、英語で3つの語をカバー

Local

Region

Area

Areaの例として、東欧、中東、東南アジア、ラテンアメリカ、ソ連、中国があげられる

Steward, Julian, Area Research: Theory and Practice, Social Science Research Council, 1950.

「東南アジア」なる概念について

東南アジアの諸国には、これに対応する概念は存在しない

- 宗教的差異（イスラーム、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教）
- 地理的・生態学的条件（大陸／島嶼部、熱帯雨林／モンスーン気候）
- 旧宗主国（イギリス、フランス、オランダ、スペイン→アメリカ合衆国、独立国）

このような多様性を越えて、「東南アジア」の概念が成立するのはなぜか？

地域研究を促した政治的要請

日本の統治による「統一圏」の成立

東西冷戦下の(とりわけベトナム戦争)地域理解の必要性

東側の進展に対する「開発」概念の提唱

ロストウ『経済発展の諸段階』(1960年)

→イェール大「東南アジア研究プロジェクト」(1947～)

コーネル大「東南アジアプログラム」(1951～)

地域研究と政治の関係

ハーバード大の東アジア研究所、1968年にCIA要員を研究プログラムに参加させる

→「憂慮するアジア研究者委員会」

人類学における「地域」

人類学の歴史

1871 「進化論人類学」の誕生

モーガン『親族と姻族の諸体系』 モーガン＝弁護士

タイラー『原始文化』 タイラー＝クエーカー教徒

いずれも、「未開」社会研究を通じて「人類」を理解しようとする→「進化」

1922 「機能主義人類学」の成立

マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』

ラドクリフ＝ブラウン『アンダマン諸島民』

人類学者がひとりで長期にわたるフィールドワークを実施

背景にあったのは、植民地支配の拡張と、現地社会の統治の必要性

→イギリス、フランスにおける「社会人類学」

アメリカ合衆国における「文化人類学」

いずれも、「近代国家」より小規模な集団を、フィールドワークを通じて理解

localな社会ないし文化を研究対象として構築

人類学の地域社会研究としての自己定義

クローバーとパーソンズによる人類学／社会学の棲み分け
1958年『アメリカ社会学雑誌』に掲載された小論文

社会学＝文字社会研究、社会関係の研究

人類学＝無文字社会研究、文化の研究

この「棲み分け」を歴史的コンテクストのなかに置くと？

第二次世界大戦後のアジアアフリカ諸国の独立

朝鮮戦争、第1次ベトナム戦争の終結

東西冷戦の勃発

→人類学は、そうした歴史の流れに背を向ける形で研究対象の構築を おこなった

人類学が「地域」を対象としたことの意味

人類学は、徹底的に政治的な状況のなかで、徹底的に非政治的な研究対象の選択という、政治的な作業をおこなった
cf.きわめて政治的な「地域研究」との差異化

こうした研究対象の構築がもたらした「効果」

- ・ フィールドワークを重視 文献をもたない社会の研究
- ・ 「民衆」に焦点を当てた研究の推進＝従来の支配者中心(王、貴族、知識人)の研究からの転換
- ・ 「国家」を中心とする視点からの離脱
- ・ ホーリスティックな視点の導入 デカルト以来定式化された、細分化→総合という近代科学の原則に対するアンチテーゼ
- ・ 「変化」より、「連続」「持続」に関心をもつ 共時・通時

こうした「成果」は、今日ではむしろ「批判」の対象に